

# かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)  
電話 66-1311  
FAX 66-1314



## 吉舎分教会

大正14年4月18日 設立  
昭和17年2月1日 御分霊下附  
昭和53年3月26日 移転建築

立教189年11月23日(月)午前10時(9時受付)

天理教青年会笠岡分会

青年会長様御臨席総会

～親孝心を、生きる～



立教189年  
4月号

おつとめ・式典  
感話・抽選会(16時終了予定)

学生層育成者講習会  
開催  
学生担当  
委員会

3月21日、学生担当委員会(上原  
繁次委員長は、「学生層育成者講習  
会」を開催し、本部学生担当委員会  
より、中山祥吉委員長の出向があつ  
た。

中山委員長は、自身のエピソード  
を交えて、育成者の姿勢、学生層の  
特性、自らが信仰を求め共に歩む事  
の大切さについて講話を行った。参  
加者は、様々な経験を通して信仰を  
求める講師のお話に、熱心に聞き  
入っていた。(講話内容は次の通り)

日頃は学生層育成の上にお力添えを  
賜りまして、誠にありがとうございます  
です。また、本日はこうして学生層育  
成者講習会を開催いただきまして、誠  
にありがとうございます。

今年は立教189年であります。一昨年、  
教祖の年祭活動2年目の年に、学生担  
当委員会として担当者大会という場で  
真柱様からお言葉を頂戴いたしました  
。その中で真柱様は、

「学生たちよりも一歩も二歩も先に



手振りを変えて熱く話される中山先生

立って、教えを守り成人に向かって努  
力を積む姿は、道を通る上の生きた教  
材になるでしょう。さらにまた、努力  
の道中で味わう皆さんの喜びは、信仰  
の喜び、感激を語り伝える話の台とな  
ります」

とお話くださいました。

砕いて申しますと、私たちの経験そ  
のものが学生にとって教材になる。そ  
して私たちが教祖を求めて通っている  
姿そのものが語り伝える台になる。端  
的に言えば、この道を通っていて間違  
いない。本当にたすけてもらう道だ。  
ということを私たち自身が持ち、それ  
を言葉にすることが大事だと思わせて

いただいております。

しかし今の風潮として、「分かる人  
は分かってくれるだろう」「伝わる子  
にはいつか伝わるだろう」「信仰は分  
かる人がすればいい」という空気がど  
こかにあるように感じます。しかしそ  
れではいけない。この信仰を通じてい  
る私たちは、親々のおかげで今がある  
ということを知っているからこそ歩め  
ている。今の若い子たちはそれを知ら  
ずに歩んでいる。その子たちに伝える  
のはやはり私たちだと思います。

まず父の話をさせていただきます。

私の父は81歳で、ずっと詰所に住んで  
おります。ある時、大学3年生の娘が  
帰ってきて「ただいま」と言いました。  
私には何も気づかないのですが、81歳  
の父はその娘のつけ爪の色が変わって  
いたことに気づいたのです。

「お、ええ色になったなあ」

この一言で娘は非常に喜びました。  
自分が時間とお金をかけているところ  
を見てもらえる、それだけで心が開く。  
そしてその後は素直に話を聞くように  
なる。逆に私は小言を言うってしまうの  
ですが、小言を言えば言うほど心は離  
れていく。けれど父の言葉には心が向  
く。

何が違うのかと思ったときに、「入  
り口が違う」と感じました。相手に関  
心を持つているかどうか、それが全て  
ではないかと思つたのです。

今日は学生層の話ですが、20代前半・  
後半の若い人たちの思い浮かべていた  
だきたい。「あの子最近来ないな」「来  
てもおつとめせず帰るな」という子を  
思い浮かべながら、次どんな声をかけ  
るか考えていたのだと思います。

実は私も母から同じような関わりを  
受けていました。夜中12時や1時にお  
ちばに帰っても、母は起きてきて「お  
帰り」「お腹減ってるやろ」と言つて  
ご飯を出してくれました。最初は「い  
やいいよ」と言うのですが、それでも  
出そうとする。ある時受け取ると、冷  
蔵庫の隅まで出てくる。その後「祥吉、  
あそこの信者さんどうしてる。あそこ  
の人がな、こうこうやうやってたす  
かつて今繋がってるんやで。あの人は  
どうや」と聞きたいのです。

私を通じて信者さんの事が気にな  
る。また、信者さんに対して私の心は  
今どつちを向いているのかということ  
がうちの母は知りたかった。

つまり親心とは、食べさせることで  
はなく「その人の心の向きに関心を持

つこと」だと気づきました。だから若い人に信仰を伝える最初は、教えることではなく「相手に興味を持つこと」だと思います。今、この子が仕事でつまづいているのだろうか。家庭のことで悩んでいるのだろうか。困ったら言ってきたらいいだろう。そんなこと言ってきたらいい。心の通じ合いがなければ、その会話は起きてこない。じゃあ、どちらから声をかけるのか。やはりそれは親側がかかるべきだと私は思います。

教祖の逸話篇を紐解いてみると、

10代前半から教祖のもとで、教祖のご飯を作るお手伝いをされていた松田やすさんに対して教祖は、

「おまえの炊いたものを持って来てくれると、胸が開くような気がする」とおっしゃいました。松田やすさんはその教祖の言葉できっと喜ばれたと思います。

年頃の娘さんだから自分の味付けどうだろうと、思っていたのだらうと思われる。そこを教祖はちゃんと見ておられてそして相手を喜ばす一言を出しておられるなどというように思います。

また西尾ナラギクさんには、

「こんな時分には物のほしがる最中

であるのに、あんたは神妙に働いて下されますなあ」と言つてちやうど出来上がった物を3度教祖はおいただきになつておられる。きつとその姿は、このナラギクさんにとって私は一生の宝だと思います。

教祖は行為ではなく、その人の心を見て、そこに喜びの言葉を返しておられる。私たちは若い人が教会に来てくれる、それだけでもありがたいと思うのかもしれないが、その子が何をしてくれたのか、それを通して何がいたただけるのだよということまで、私は伝えさせていただかないといけないなというように感じています。

我が家のいんねんの話もさせていただきます。

母は膠原病を患い、常に薬を飲む生活でした。私は小さい頃、その姿に不足は感じませんでした。この信仰のおかげで通れている」という母の言葉が心に残っていました。

しかし中学・高校になると「ほんまに神様いるんか」と思う時期もありました。そのときに父の姿は不足の対象だった。しかし「祥吉くん、あなたのお父さんに私はたすけられたんだよ」とか「あなたのお父さんがうちへ勤務

に来てくれて来てくれたらふわっと空気が明るくなるんだよ。みんながね、楽しく御用ができるんだよ。」という声を聞き、ああ、すごいなあと思ひ、初めて信仰談議ができました。

さらに結婚後、妻が突発性紫斑病という病気になり、母と同じように強いステロイドを飲むことになりました。同じ家族に同じような病が重なったとき、「これはいんねんか」と思われされたというより、そう気づかされた感覚があり、ここまでよく導いてくださつたと感じました。

血に身上を見せてもらい、私たちの家は親神様にご守護をいただいて今があるということをお忘れはいけません。人だすけをしなさいよ。と言つていただいたと感じ心定めをし、これから何があつてもこの道で歩ませてもらう。この道の中に喜びを見つけさせてもらつて通らしてもらおうという話をしてから、今は8人の子どもを授かつています。

しんちつにたすけ一ちよの心なら

なにゆへいでもしかとうけとる

三 38

このさきへたすけ一ちよにかゝりたら

どのよなものもいさむばかりや

八 69

今私たちに大切なのは、教会に配ら

れました「たすけ一条・つとめ一条」に通ることだと思います。持ち場、立場それぞれあるにしても、目の前の方のたすかりを願つて、そして私たちができるおたすけへの第一歩をちゃんと踏み出すことが一番だと思つていただきます。

信者さんの講社祭には、おじいちゃんや毎日出てきてくださり、息子さん夫婦とお孫さんもおられます。そのお孫さんは就職して寮に入り、もう来られないかと思つていましたが、休みが合えば今でも来てくれていました。そこには1つのきつかけがありました。

その子が中学生の頃、「今日はお扉が開く日で、お願いやお礼がストレートに届く日や。今日は人のたすかりを願おう」と話しました。すると素直に「分かりました」と応じ、おじいちゃんのお孫さんの身上と一緒に願つてくれました。それをきつかけに、その子は毎月の講社祭に出てくれるようになりました。

「無理かな」と思うのではなく、こうしておたすけに巻き込むことが大切だと感じています。

また1つのポイントとして、お願いだけで終わらず「お礼づとめ」をしよ

う伝えることが重要です。「少しずつ良くなっているから、今日はありがたうも伝えよう」と声をかけることです。さらに、コロナ禍の頃出会ったおばちゃんや骨折し入院し、その子に状況を伝え、「一緒にお願ひしてくれないか」と頼むと、素直に応じてくれました。そして経過を伝え続けることで、「良かったですね。良かったですね。わかりました。今日もおつとめます」と言ってくれます。

この経験から、「信仰せい」と何度言うよりも、「1回一緒にお願ひしてくれないか」と頭を下げて頼む方が価値があると感じています。若い人をおたすけに巻き込み、その経験を共にすることが、信仰の喜びや感激を伝える土台になっていきます。

人生は順風満帆ばかりではなく、辛い時もあります。その時こそ若い人は私たちの姿を見えています。どう受け取り、どう言葉にし、どう行動するか。その一つひとつが伝わっていきます。だからこそ、私たち自身がおたすけに向かう心を忘れずに通ることが大切だと感じています。

また、教祖140年祭学生おぢばがえり大会についても触れさせていただきます

す。教祖140年祭と冠をつける行事は他にはない。なぜ学生会は許されているのと言いますと、真柱様が許してくださっています。それは、先日行われた1月26日の教祖140年祭に、私たちは、これまでの事をお伝えしに帰らせてもらえた。学生ももちろんその日に帰れたいのですが、学生さんの本分は勉強なので、学校を休んでまで帰れない。そこで学生にとっての今回の教祖の年祭、教祖に喜んでいただくという心を届けるのは、この3月28日だよと決めていただいているわけです。ですのうで、うちの子は帰ったよと思われるかもしれませんが、どうぞこのタイミングに合わせて、もう一度、声をかけていただきたいと思っています。

この大会は学生が主体で運営し、同じ学生が準備している。その姿にこそ強い刺激がある。

「行っておいで」と言われて来た子ども、同じ学生が一生懸命動いている姿を見ると、「なんじゃこりゃ」となる。笠岡大教会の学生会であれば、共にこの団体に参加してくれている子に喜んでほしいという純粹な気持ちで取り組んでくれていきます。この純粹なところ、人が響きます。人のためにつ

くせる。純粹に人に喜んでほしい。これは、学生時代に持てと言われてもなかなか持てないです。ヘタしたら大人でも持っていない人が多い。でも、この学生会の行事を通して感じることはできる。そう思いましたら、この学生おぢばがえり大会に参加してくれた子たちはきっとこの先の自分の宝物になる経験をしてくれて、私は地元へ帰っていいってくれるだろう。このように思っています。

今回の大会に向けて新しく曲ができました。バンド形式で中庭で歌うには少しどうなのかなという印象の曲ですが、ぜひお伝えしたいと思います。

作曲は現在の実行委員長の学生が手がけ、歌詞は実行委員会のメンバーや大人も含めて一緒に考えました。もとのたまたまきを作った学生は、コロナ禍の中で中学時代を過ごし、人とのつながりが薄い環境で育ちました。高校時代には挫折しかけたこともあったそうです。

そんな時、自分のことで精一杯のはずなのに優しく声をかけてくれる友達がいた。その姿に「なぜこの人はこんなに優しくできるのだろう」と疑問を持ち、話を聞くうちに、その友達が信

仰を大切にし、親神様のご守護を感じながら通っていることを知ったと言います。

その体験をもとに生まれたのが「やさしい心」という歌です。

この歌を通じて参加してくれた子たちにも、ぜひ次は自分が人に優しくなりたい、そういった歌詞が入っています。自分が優しくしてもらった。この子はなんで優しくできるんだろう。それは親神様の、大きな親の思いにつながっているからなんだな。じゃあ、私も次は人に優しくなる。そういうような歌詞です。

ぜひこの曲を聴いていただき、できれば学生の皆さんにも届けていただきたいと思っています。

先ほど学担の委員長さんと話をする中で、「おぢばを賑やかに」「目的を明確にしたおぢばがえり」という方針を大教会として掲げていることを聞かせていただきました。

ぜひ学生の皆さんに、「教祖の年祭に帰るんだ」「教祖のもとへ帰り、頭を撫でてもらおう」という明確な目的を伝えていただきたいと思っています。そして教祖のような優しい心をお願いしたい。また地元へ戻ってくる。この一連

の流れこそが、本来の「おちばがえり」だと考えています。どうぞお近くの学生に積極的に声をかけていただきたいと思ひます。

また11月23日には笠岡分会で大亮様をお迎えして総会が開催されるとのことです。青年会の皆さんはきつと忙しく動いておられると思ひますが、こうした機会をぜひ若い人への声かけのチャンスとして活かしていただきたいと思ひます。

学生層は青年会層でもありません。教会につながることは、そのまま神様につながることであります。「この道を信仰して、こうやって歩んできた」「こうやって神様にたすけていただいた」といった実体験を語ることは、大きなきっかけになります。

分会の総会へも、「来てみないか」と一言声をかけるだけで終わらせず、その機会をしつかり活かし、若い人たちを道へつなぐ働きかけをしていくことが大切だと感じています。

最後に、私の少し上の先輩が、若くして直属の教会長になられた時、前真柱様から「丹精とはどういうことやと、思う」と問われたそうです。先輩は「導くことですか」と答えましたが、真柱

様は「それは少し違う。導くというのは上から引つ張るイメージや。丹精とは共に歩むことや」とおっしゃいました。

この「共に歩む」という言葉から、私は相手の歩幅を知ることの大切さを感じました。赤ちゃんが歩き始めた時には、その歩みに合わせて横で支えながら進む。成長すれば手を添えたり手を引いたりしながら見守る。そしてさらに大きくなると手を握らせてくれなくなるが、それでも目的地を示し、「あちらへ行こう」と伝えながら関わり続ける。

つまり共に歩むとは、相手の状態に合わせて関わり、そして同時に「どこへ向かうのか」という方向をはっきり示すことだと思ひます。その方向こそ、教祖のひながたであり、この道を歩むということなのです。

この前真柱様の「丹精とは共に歩むことや」という言葉は非常に重く、広く、私たちが常に心に置くべきものだと感じます。

そして最初に申し上げたように、私たち自身がどのようにこの道を歩んでいるか、その姿こそが若い人たちへ生きた教材になります。この道は本当

にたすかる道であり、たとえいんねんによる苦しみの中であっても、心を倒さず通ることが出来る。その実体験や心定めの話が、そのまま伝わっていくのです。

笠岡大教会につながる若い人たちも、みないんねんあつて引き寄せられている大切な後継者です。真柱様も「学生会に集まってくる学生たちはみんないんねんあつてお引き寄せいただいた大切なこの道の後継者であります。そして皆さんはそうした学生の育成を心掛けておられるはずであります。学生たちの成人を願つて、彼らと向き合い、

心を込めて親神様、教祖の親心を伝えて、幸せにつながるこの道の通り方を教えることに力を尽くしてもらいたいと思ひます。」とお話くださっています。

「誰かがしてくれるだろう」「そのうち気づくだろう」と思うのではなく、今つながっている若い人たちに、もう一度こちらから声をかけることが大切です。それこそが教祖のお望みだと思ひます。

どうぞまずは学生おちばがえり大会に向けて、そしてその先へと、教会やおちばへ足を運ぶきっかけとなる声かけをお願いしたいと思ひます。

若い人たちがこの道を通して生き生きと成長してくれることを祈念し、今日のお話とさせていただきます。

(整文 高田 一弘)

親里管内学生のつどい 5/24

春学 (春の学生おちばがえり) 3/27・28

夏学 (夏の学習指導) 8/16

秋学 (秋の学生会の日) 11/8

It's your turn! 石の山南広 KASADOKA

LINE QR CODE

TSU\_KASADOKA

# 教祖140年祭おぢばがえり 大会に学生37人が参加

学生会・学担



協力して部屋からの脱出を目指す

笠岡学生担当委員会(上原繁次委員長)は、3月27・28日に団体を組み、教祖140年祭学生おぢばがえり大会に参加した。年祭の年の今回は、高校生、大学生、専門学校生ら37人と、スタッフ14人、合わせて51人が参加した。

初日は、班内の交流を深めるため、詰所の部屋を使って脱出ゲームなどが行なわれた。また、夕つとめ後には、東西泉水プール前広場で、前夜祭「春フェス」が開催され、模擬店やステーションなど盛り上がった。

2日目の式典では、真柱様からのメ



どれだけ高く積めるかな

その後は、班別対抗のゲームが開催され、和やかな雰囲気の間となった。

学生らは、2日間を通して、同じ笠岡に繋がる学生同士の



映えるパフェ作りコンテスト

ッセージ、学生による決意表明や感話があり、一人一人が、教えを心に治め身に行う決意を新たにしました。

午後からは、「直属アワー」の時間が設けられた。各教区団体から参加の笠岡の学生も加わり、大教会長から学生に向けて、信仰をテーマにお話があった。

午後からは、「直属アワー」の時間が設けられた。各教区団体から参加の笠岡の学生も加わり、大教会長から学生に向けて、信仰をテーマにお話があった。

絆を深め、お道の学生としての自覚を高めた。

(委員長 上原繁次)



直属アワーで全員集合

立教189年

全教一斉

ひのきしんデ-

報恩  
感謝

「かしもの・かりもの」を心に  
一手一つにひのきしん

4月29日(水・祝)

📍お近くの会場は  
「教区・支部情報ねっと」で  
ご確認ください



鼓笛合同練習会 開催

少年会



ファイフの練習



ポンポンの練習



お楽しみ行事の風景



おつとめの大切さを話される育成会長様



鳴物を入れて陽気につとめられたおつとめ



全員で総立ちまなび

笠岡団笠岡むつみ鼓笛隊は、大教会で3月31日から4月1日の朝まで、コロナの非常事態宣言以来初めて、鼓笛合同合宿を、総勢50人で開催致しました。

この度は本部からKOGの新曲が発表されましたので、みんな真剣に練習に取り組み、上手に演奏出来る様になりました。

又、夜は合宿恒例のお楽しみ行事を

おつとめまなび総会

開催

少年会

少年会笠岡団(森本忠善団長)は、4月1日に本年度のおつとめまなび総会を開催しました。少年会員147人、育成会員135人、総数282人の参加を頂いて、

行い、みんな楽しんでひと時を過ごしました。合宿にあたり、大勢のご協力を頂きました事、心から感謝申し上げます。(団長 森本忠善)

にぎやかにつとめさせて頂きました。育成会長様(大教会会長様)のご臨席を頂いて、午前10時より始めさせて頂きました。おつとめをつとめさせて頂く前に、育成会長様より、おつとめの大切さ、何のためにおつとめをつとめるのかと、お話を頂き、「みんなで今からつとめるこのおつとめで、世界をたすけるんだ、陽気な世界にするんだという思いを持って、一生懸命つとめほしい。」とお願いされてから、座り目から十二下り目までを、各ブロックより鳴り物を入れて、少年会員、育成

会員共に陽気に明るく勇んでつとめさせて頂きました。まなび後、総会式典では、新1年生を先頭に全員で「少年会の誓い」を力強く唱和した後、各教会の新隊長に新しくつくられた隊長バッチを団長より渡され、隊長規則「三つの約束」を率先し、隊員達を引っばっていくことを約束されました。続いて、「わかぎ門出式」が行われ今春、中学を卒業した12人の少年会員に記念品を贈呈、団長より少年会の卒業生としてこれから、少年会員を導いていってほしい。そして、17歳になったら、別席を運ん



新1年生を先頭に「少年会の誓い」を唱和



新隊長には隊長バッチが渡された



わかぎ門出式でお祝いの言葉を贈る団長

で、おさづけを取り次げる用木になつてほしいと、お祝いの言葉を贈られました。最後に、新しいテーマソングを上原委員、三代委員の指導をもって参加者みんなで、声高らかに歌い、式典を終了させて頂きました。

今日の目を迎えるにあたり、それぞれの教会では、おつとめ練習又、模擬店等おつとめまなび総会に当たり、お世話取り下さいました方々、お忙しい中ひのきしんをして下さいました方々に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

(副団長 浅野明教)

### 第4回「伏せ込みひのきしん」実施

### 青年会

青年会笠岡分会(瀬藤大喜委員長)は、4月4日、第4回の伏せ込みひのきしんを笠岡詰所でつとめさせて頂きました。参加者は青年会員、OB含めて7人でした。あいにくの天気で、当初の目的であった布団干しは叶いませんでしたが、詰所内の布団の片付けや宿泊の準備をさせて頂きました。普段何気なく使わせてもらっていた詰所ですが、細やかな気配りで受け入れてくださっている事に気づかせていただきました。また、今年からTLI(天理教語学院)へ入学するドンシエンくん(台湾より)も加わって頂き、曇り空をも跳ね飛ばす陽気な心で賑やかにつとめさせて頂きました。



ました。陽気なパワーと刺激をいただける1日となりました。(委員長 瀬藤大喜)

晴れやかに花やかに  
第7回目の桜祭り 開催  
海外部

海外部(上原志郎部長は、4月5日(日)、アフリカ孤児・能登半島等復興支援 桜まつりバザーを開催、今年は晴天と満開の桜のご守護を頂いての開催となりました。

恒例の笠岡女性チームの和太鼓の勢いで、バザー・模擬店・子供ふろしき市が始まりました。

途中、講堂舞台ではダンス・マジックショー・雅楽の演奏と舞が披露され、集まった430人程の来場者を魅了しました。

今年の売り上げも目的通りアフリカ孤児支援と災害などの被災地への支援



充実の模擬店



場を和ませる司会者の声



至福の一杯、二代目ラーメン

金に使わせて頂きます。

2月からのバザー品の収取と3月に入ってからバザー物品の仕分け・値付け、4月に入ってからの模擬店・会場作り・陳列など、多くの方々のお心寄せとご尽力があったからこそ、今年の桜祭りも開催が可能になりました。

心からお礼を申し上げます。有難うございました。

(部長 上原志郎)

スタッフの声

▼弥高山分教会 岡崎 治喜

今回アフリカ孤児・被災地支援バザーに司会進行として参加させていただけました。

当日は開場前から多くの方が来場さ

れバザーの開始を待ちかねており、第1回の頃から考えると本当に大きな行事になったのを実感しました。

私は主に会場内を歩きながら、バザー開催の主旨や各模擬店の紹介、ステージの案内をさせていただきました。

来場された皆様は、思い思いに欲しいものを手にとり、模擬店の食事に舌鼓を打ち、ステージを歓声が上がながら楽しんでりと心躍るひと時を堪能されてたように思います。また参加された方々の喜びが支援を必要としている方の喜びにも繋がる事とても嬉しく思いました。

この行事は教内の方だけでなく教外からも多くの参加をいただいております。支援目的以外にも天理教の事を知って

いただく大変良い機会になっていると思います。これから先もずっと続く、大教会や地域にとって欠かせない行事になって欲しいと願っているのです、もっと多くの方々とこの喜びを分かち合えるように努めてまいりたいと思います。

▼海松ヶ岡分教会 森本 実

突然の事でしたが、参加させて頂き、話を伺ったところ、今年はラーメンがない。と聞きましたので、去年のラーメンに近づけるよう、2代目ラーメンとして出店いたしました。

皆様に喜んでいただけるようにと最善を尽くして、作らせて頂きました。——味の濃さ一つ、気にしながら薄めにして醤油ダレを置いたり、親鳥チ

ヤーシューが固すぎないように、煮込み時間を調整したり、薄めに刻んだり、と細かなことを——毎年出店される方は、たくさん心を使われていたんだと、痛感致しました。

今までは、傍観者の立ち位置でただ見ているだけでしたが、この度のお話を頂いてからの毎日は本当に勉強になりました。

来年からは、いかなる立ち位置かわかりませんが、常に、準備してくださる方々の真実の下で成り立っていることを、かみしめながら、色々なことにつなげてまいりたいです。

準備から片付けまでお手伝いくださいました皆様にも感謝させて頂き、このような機会があれば、全力で努めたいと思えました。本当にありがとうございました。

▼米府分教会 三代 ガシエリ

ケニアのサモサ料理を出店し、多くの方々に味わっていただけた。サモサは、ひき肉タマネギ等を包んで揚げた、いわば揚げ餃子のような食べ物で、外は香ばしく中はジュシーな味わいが特徴である。しかし、遠くアフリカの料理であるため、日本の方々のお口に

合うだろうかという不安も、正直なところ少なからずあった。

当日は、そうした不安を抱えながらのスタートであったが、多くの方々が足を止めてくださり、興味深そうに手に取ってくださる様子が見られた。「初めて食べたけど美味しいね」と声をかけてくださる方も多く、その反応に私たちも大きな励ましをいただいた。

用意していた100個を超えるサモサは、予想を上回る反響の中で全て完売となり、売り切れた後にも「もつと食べたかった」「とても美味しかったよ」といった嬉しい言葉を頂戴した。その一つひとつの言葉が心に残り、出店して本当に良かったと感じた。



大人気だったアフリカ料理

今回の出店を通して、食を通じて異文化に触れていただく喜びと、その魅力を共有できたことに大きなやりがいを感じた。今後もこのような機会を大切に、多くの方々に新しい味や文化の楽しさを伝えていきたいと思う。

(三代幸徳代筆)

▼米府分教会 三代 幸徳

普段なかなか雅楽の音色に触れる機会のない一般の方々にも多くご来場いただいた。演奏が始まると、笙や箏、龍笛の織りなす幽玄な響きに、皆さんが耳を傾けて熱心に鑑賞してくださいました。姿がとても印象的であった。ゆつたりと流れる雅楽独特の時間の中で、日常



雅な楽の音色と勇壮な舞

とは異なる世界観を味わっていただけたように感じる。

中でも舞楽「陵王」では、鮮やかな装束とともに練り広げられる力強く勇壮な舞が会場の雰囲気を一変させた。堂々とした動きや躍動感あふれる所作に、観客の視線は釘付けとなり、曲が進むにつれてその迫力に引き込まれていく様子が伝わってきた。

今回の演奏会を通して、雅楽の持つ奥深い魅力や美しさを、より多くの方々に感じていただけたことを大変嬉しく思うとともに、今後も雅楽を身近に感じていただける機会を大切にしていきたいと強く感じた。



彩りを添える笠女スイーツ

## 三 月 月 次 祭 祭 文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます

親神様の親心溢れるご守護を頂戴し 寒さ厳しい冬も次第に春の訪れを感じられる中に 日々は結構に恙なく生活させて頂いている事は 誠に有り難く勿体ない極みでございます 私共は日々朝夕に御礼申し上げつつ 陽気ぐらしに向かつて心の成人を目指したすけ一条の御用の上に努め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日はお許し戴いた御祭日でございますので 只今から一同陽気に勇んで座りづとめてをどりを勤めて三月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供たちが 相共にお歌を唱和し 日頃のご厚恩に改めて御礼申し上げる状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて年度替わりを迎え 春休みの間におちばでは教祖百四十年祭学生おちばがえり大会が開催されます 笠岡では鼓笛合同合宿 続いて少年会おつとめまなび総会を開催致します

また本日は祭典に引き続き中山祥吉先生をお迎えし 学生層育成者講習会を開催致します 次代を担う若者の育成の上にお聞かせ頂くお話をしっかりと胸に治めさせて頂きたいと存じます 何卒親神様には 陽気ぐらしをさせてやりたいとの思召にお応えしたいと たすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいます 万たすけの上にも尚も自由のご守護を賜り 望み下さる陽気づくめの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

## 春 季 霊 祭 祭 文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます本席様の神霊 初代真柱様並びに奥様の神霊 二代真柱様の神霊 大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の神霊 初代会長上原さと刀自の神霊 二代会長上原伊助大人光刀自の神霊 三代会長上原繁雄大人くにゑ刀自の神霊 四代会長上原郁雄大人朝子刀自の神霊 歴代会長と共に道の上に真実を尽くされた役員 部内教会長 教人 よぶく信者の神霊 新しく合祀されました上原澄雄大人 仙田喜久雄大人 掛橋美津子刀自 諸々の神霊の前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます 祖霊様方には教祖を通して親神様の真実の御心とお働きを知り かしものかりもの喜びと感謝の心から御恩報じの道をお通り下さいました 今日のお道が結構な姿をお見せ頂いておりますのは親神様教祖のご守護お導きの賜物である事は申すまでもありませんが また一つには祖霊様方の誠真実のお陰と 私たちは日々朝夕に御礼申し上げると共に 祖霊様方にもお喜び頂きたいと 届かぬながらも たすけ一条の御用の上に努め励ませて頂いております

その中にも本日は春の霊祭を執り行う日柄でございますので 御前に心づくしの種々の物を供えて 只今はおつとめ奉仕人代表の部内教会長一同 陽気に勇んでをどりをつとめさせて頂きました 続いて祖霊様方の御前に座を移し 在りし日を偲び御遺徳を称え お礼申し上げる皆の真実の姿をご覧下さいまして 祖霊様方にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて教祖年祭を一月二十六日に終え 次の塚へ向かつての成人の歩みが始まりました 今年には年祭の年として目的を明確にしたおちばがえりを通して成人の歩みを進めさせて頂きます また十一月二十三日の青年会会長様御臨席総会には おちばからお越し下さる中山大亮様を 笠岡一丸となつて喜び一杯にお迎えさせて頂く事ができるように 努め励ませて頂く所存でございます

何卒祖霊様方にはこれからも御心放たずお見守り下さいまして 皆がたすけ一条に心明るく楽しんで邁進する姿になりますようお力添えの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百八十九年 三月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり			おつとめ			地方	役割 区分	講話	祭主		扨者								
									前	中	大	上	前	大				杉	虫	佐	大	上	大	虫	上	大		
谷内美知子	内海安子	岡崎豊子	田中隆之	中村義太郎	上原繁次	吉岡壽剛	中村剛	森本忠善	上原順子	前奥様	大教会奥様	上原繁道	前会長様	大教会長様	杉原善朗	虫明立生	佐藤道孝	座りづとめ	学生層育成者講習会	大	上	大	虫	上	大	虫	上	大
高木孝子	室悦子	三島照美	森本忠善	内海史郎	田林久嗣	中村剛史	高木昭祥	今川昌彦	吉岡八恵	中村初美	武内正美	横山逸郎	上原伸浩	谷内伸自	佐藤真孝	山田敏教	中島誠治	前半	五月講話	指	中	佐	田	中	佐	田	中	佐
上原千枝子	中村初美	横山小智榮	岡崎治喜	杉原善朗	谷内秀自	岡田誠志	赤木素志	門脇元教	田中つかさ	山野なつ	門脇加津	浅野明教	山野弘実	岡崎真一	三代温生	吉岡誠一郎	上原志郎	後半	海外伝道講習会	指	中	佐	田	中	佐	田	中	佐

立教百八十九年 春季霊祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり			おつとめ			地方	役割 区分	講話	祭主		扨者								
									前	中	大	上	前	大				岡	浅	門	大	吉	北	山	吉	大	山	吉
室悦子	山野なつ	内海安子	今川昌彦	横山逸郎	田中隆之	上原浩次	上原繁次	岡崎真一	門脇加津	前奥様	大教会奥様	上原繁道	前会長様	大教会長様	岡田誠	浅野明教	門脇元教	前半		指	中	佐	山 <td>吉 <td>大 <td>山 <td>吉 <td>大 </td></td></td></td></td>	吉 <td>大 <td>山 <td>吉 <td>大 </td></td></td></td>	大 <td>山 <td>吉 <td>大 </td></td></td>	山 <td>吉 <td>大 </td></td>	吉 <td>大 </td>	大
田中つかさ	吉岡八恵	谷内美知子	高田一弘	谷本章	三阪泰人	西村靖彦	貞清実	藤井正仁	上原千枝子	横山小智榮	武内正美	岡本善一	仙田公男	福島大介	高橋徳行	藤井保人	北川壯一	後半		指	中	佐	上 <td>杉 <td>高 <td>上 <td>杉 <td>高 </td></td></td></td></td>	杉 <td>高 <td>上 <td>杉 <td>高 </td></td></td></td>	高 <td>上 <td>杉 <td>高 </td></td></td>	上 <td>杉 <td>高 </td></td>	杉 <td>高 </td>	高

📌 詰所からのお願い

詰所での宿泊・喫食について

- ・詰所で宿泊・喫食される場合は、「教会名・代表者名・泊数・食数」を、2日前までには、必ず詰所へご連絡ください。
- ・食事をしない(宿泊のみの)場合でも、2日前には申し込みをして下さるようお願い致します。

上原志郎	杉原善朗	高木昭祥
------	------	------

大教会だより

辞令

立教189年3月21日付

職制人事

青年会 副委員長

山野 大地

教人講習修了者

立教189年4月10日終講

①・② 上 父 岡 秀 明

③ 高屋 武内 ゆり

春学詰所受入ひのきしん

自 立教189年3月27日

至 立教189年3月28日

東ブロック

吸江 西村 由理子

芳井 上村 大

西ブロック

神邊 岡本 善一

福山ブロック

福山 田中 舞

第17回大教会長杯親睦スポーツ大会

大会スケジュール:

- ・ 8:30までに笠岡東公民館グランド(笠岡市富岡300-3 0865-67-4016)に集合
- ・ 雨天でソフトバレーボールの場合は陶山小学校体育館(笠岡市押撫910-3 0865-66-0138)を用意しています。詳細は各ブロック担当者にお尋ねください。
- ・ 開会式(遥拝・大教会長様あいさつ・競技説明・選手宣誓・準備体操)
- ・ 9:15 プレイボール
- ・ 12:00ころ 閉会式(成績発表・表彰式・挨拶・遥拝)
- ・ 閉会式終了次第 昼食(パンの配布)
- ・ 解散、片付け

詳細は:

東ブロック/大教会神事所  
 福山ブロック/福島大介さん(福満)  
 高屋ブロック/北川茂久さん(稲倉)  
 島根ブロック-三代幸徳さん(米府)  
 久松ブロック/中村剛史さん(久松)  
 西ブロック/内海史郎さん(島中)  
 上下・府中市ブロック/高田一弘さん(眞府)  
 までお尋ね下さい。

※記事の訂正

本年3月21日発行の『かさおか 第65巻第3号』11ページ「立教189年定期巡教表」は、

・ 鶴 眞 3月10日 田中隆之を抹消し、

・ 府世原 3月12日 森本忠善を追加しました。

計 報

西江昌直さん

金浦分教会前会長

昨年3月3日出直されました。享年 88才

谷本道子さん

高丸分教会初代会長夫人  
3月23日出直されました。享年 92才



教祖140年祭から早くも3ヶ月経ちました。4月から新年度になり、入学や新生活など、新たなスタートを切る季節が始まりました。

私の娘も先月、中学校を卒業、親元を離れて天理高校第二部へ入学しました。毎日過密なスケジュールで朝ひのきしん勤務へ行き、その後夕方、本部で定刻参拝してから学校へ行って夜遅くに寮へ帰る日々を送っています。

親は、今まで傍で毎日一緒に生活していて、いざ離れてみると、寂しさが時折感じられます。まだ1ヶ月も経たないのに元気にしてるか、苦勞してないか、心配したり、早く顔が見たいと思う事がとても感じる様になりました。

恐縮ながら、親神様・教祖もこの様なお気持ちで子どもの帰りを待つておられるのだらうと感じます。

教会長の自分は仕事をしているのでなかなかソフト調整も難しいですが、極力、信者さん方々の身上や事情のたすかりを願っておおげに帰らせてもらえるように心掛けたいです。(う)